

## ショウジョウバエが可愛くみえはじめました

神戸大学理学部生物科3年生 吉竹ひい奈

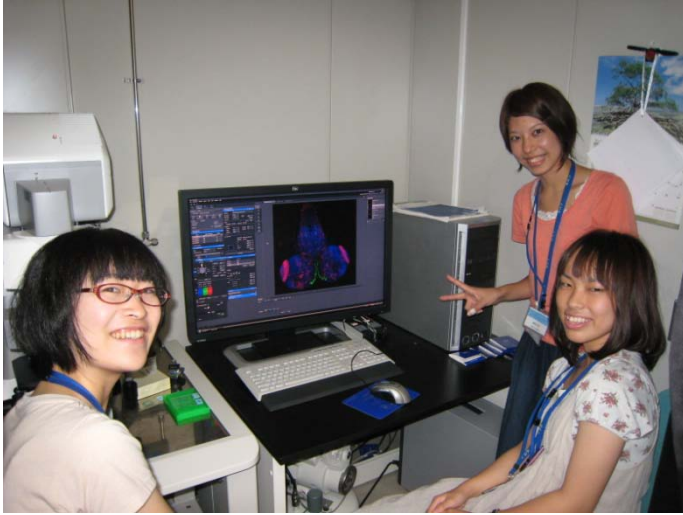
(配属先:成長シグナル研究チーム)

親の仕事の関係で、幼少期をアフリカで過ごしました。その時初めてマラリアという蚊が媒介する病気に出会いました。マラリアに罹っても誰もが薬を買うことのできない現地では、亡くなってしまう場合もあります。そんな身近な経験から、いつしか「免疫」について勉強したいと思うようになり、生物の発生、成長のしくみなどを学ぶことがその基礎になるのではないかと思い、インターンシップに応募しました。

配属先の研究室では、今までやったことのない興味ある実験をさせていただきました。ショウジョウバエの雄雌の見分け方をはじめ、実験機器の操作法など研究のいろはを知る事ができました。そして何よりも研究室の方々が仲良く、和やかに研究をされていたことが印象的でした。最終日の研究発表では、発表内容は別として、発表の方法について色々と考えることができました。また、質疑応答をするからには、内容を理解できる程度の知識を身につけておく必要があることを実感しました。そして、それぞれの発表を聞いた学生達が私の思ってもいなかった切り口で様々な質問を投げかけていることに驚きました。研究をひとりで黙々とやることも大切かもしれませんが、多くの人と研究内容を色々な角度から検討することで新しい発想が生まれるのだとわかりました。

同じ研究室に配属された人はもちろん、他のインターン生や研究員の方とごはんを一緒にしたり、インターン生の受け入れをしていないラボを見学したりすることができ、研究室以外の生活もとても充実していました。また、センター長やチームリーダーとお話しする機会があり、内向的にならず自ら出会いを求めていく姿勢を身につけられたと思います。

振り返ってみると、大好きな「生物学」にどっぷり漬かった5日間でした。同じインターンシップ生は、私の知らない知識を持っており、それを知る事で私のプラスになることはもちろん、自分の知識の少なさに反省する点もありました。これから4回生として積極的に学び、修士課程に進学したいと考えています。関係者・スタッフの方々に対して感謝の気持ちでいっぱいです。いつか、研究の場で再会できたらいいなと思います。



西村研究室にて。吉竹ひい奈さん（右下）